

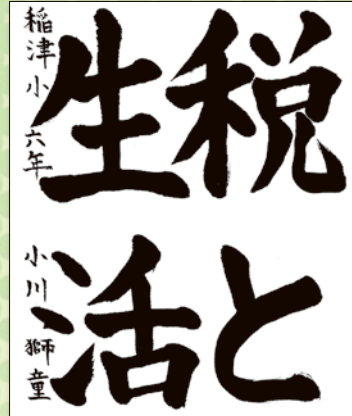
令和4年度 税に関する児童生徒の習字・作文

一般社団法人多治見法人会長賞

一般社団法人多治見法人会長賞

東濃西部納税貯蓄組合連合会や、多治見税務推進協議会、多治見税務署管内租税教育推進協議会、(一社)多治見法人会、そして多治見税務連絡協議会が協力して令和4年度『税に関する児童生徒の習字・作文集』を発行し、学校や図書館に寄贈、また、市役所や町役場の玄関・ロビーに優秀作品が展示されました。

多治見法人会長賞には、陶都中学校2年 山田千華さんの作文「期待に応える」と、稲津小学校6年 小川獅童さんの習字が選ばれました。



稲津小学校 6年 小川 獅童 さん

期待に応える

陶都中学校 二年 山田 千華さん

子供にとっては、今見ているものがすべてで、どれも詳しくは知らない。

私に通っている学校はいわゆるマンモス校で、市内一人数の多い学校である。しかし、それは「市内」というだけで「全国」とは異なり規模の小さいことである。市内という小さい箱の外には、さらに多人数の生徒が通っている学校もあるだろう。大なり小なりそれらの人数を合わせると、どれくらいの人数になるのか、調べてみることにした。結果、日本の中学生総数は、二〇二二年時点で三百万人を超えていることが分かった。そこで出てきた疑問は、教科書は税金で配られているのに約三百万人もいたら、税金が足りないのではないかということだ。年ごとに人数の増減があるとはいえ、教科書を普通に買うと、一冊あたり平均が六百五十円程になる。それを約三百万人に買っていると考えるとだけでゾッとする。しかし、ここまで税金を使うことには意味があると思ったため、文部科学省のホームページにて、ようやく意味が分かった。

日本は年々出生数が減少し、少子高齢化につながってきて

いる。生まれてきた私たちの未来に期待を込めて、教科書を配布しており国民の皆さんから「いただいているもの」なのだ。税金の使いすぎではなく、私たちの未来への投資なのだ。日本には、中学生が多勢いて、その全員が期待されているということである。

国民が納めた税を日本はどう還元しているのか全く知らずに生きてきた。だが、私たちが学生が使っている「教科書」を通して、税の使い道が分かったことに、税の使いすぎではなく、必要だからこそたくさん税を使って私たちを支えてくれていると思った。実際、教科書にお金がかからないだけでとても助かっている家庭もあり、私の家庭もそうであるために、税の恩恵をよく実感する。税について少し詳しくなれたことで、見えていかなかったものが見えるようになり、視野が広がったことに、私が知らなくとも様々なことにつながりがあり、税は色々なところで役に立っていると思った。国民の期待がかかった教科書を使って、その期待に応えるため、大切に勉強にはげようと思う。

総務委員会

令和5年度 法人会年会費及び部会費 口座振替のお知らせ

令和5年度法人会年会費を5月末日に会員各位ご指定の預金口座から振替させていただきますので、お手配のほどよろしくお願い致します。また、振込扱いの会員各位には4月末までに納付書をお送り致します。

なお、当会の年会費は次のようになっております。

年会費は資本金割

資本金	年会費額
500万円未満	5,000円
500万円以上 1,000万円未満	6,000円
1,000万円以上 2,000万円未満	8,000円
2,000万円以上 3,000万円未満	12,000円
3,000万円以上 5,000万円未満	16,000円
5,000万円以上 1億円未満	20,000円
1億円以上	30,000円
社団法人・財団法人	5,000円
賛助会員(個人・支店法人)	5,000円

※特例(親会社が本会の会員である子会社)

- ①同一資本系列、同族関係の子会社は基準額の半額とする。(ただしその額が5,000円以下の場合は5,000円)
- ②同一代表者の関係法人である子会社、または、所在地が親会社と同一の子会社は、1,000円。(ただし、会報の配布・生活習慣病健診費用の助成は行わない)

※青年部会費 2,000円
女性部会費 3,000円